

五色百人一首 桃札 一覧

西行法師 嘆けとて 月やはものを 思はする かこち顔なる わが涙かな
權中納言定家 來ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに 焼くや藻塩の 身もこがれつつ
前大僧正行尊 もろともに あはれと思へ 山桜 花より外に 知る人もなし
祐子内親王家紀伊

音に聞く 高師の浜の あだ浪は かけじや袖の ぬれもこそすれ
前中納言匡房 高砂の 尾上の桜 咲きにけり 外山の霞 立たずもあらなむ
侍賢門院堀川 長からむ 心も知らず 黒髪の 乱れて今朝は ものをこそ思へ
藤原実方朝臣 かくとだに えやはいぶきの さしも草 さしも知らじな 燃ゆる思ひを
大式三位 有馬山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする
相模 恨み佗び 干さぬ袖だに あるものを 恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
藤原興風 誰をかも 知る人にせむ 高砂の 松も昔の 友ならなくに
平兼盛 しのぶれど 色に出でにけり わが恋は 物や思ふと 人の問ふまで
源重之 風をいたみ 岩打つ波の おのれのみ くだけて物を 思ふころかな
中納言行平 立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば 今帰り来む
文屋康秀 吹くからに 秋の草木の しをるれば むべ山風を 嵐といふらむ
源宗于朝臣 山里は 冬ぞ寂しさ まさりける 人目も草も かれぬと思へば
天智天皇 秋の田の かりほの庵の とまをあらみ わが衣手は 露にぬれつつ
山部赤人 田子の浦に うち出でて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ
陽成院 筑波嶺の 峰より落つる 男女川 恋ぞつもりて 淀となりぬる
皇太后宮太夫俊成

世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る 山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる
藤原清輔朝臣 永らへば またこの頃や しのばれむ 豪しと見し世ぞ 今は恋しき